



広島国際学院  
創立85年



泊漁港(岩手県)付近で海中瓦礫撤去作業を行う小林佐和子さん(右 平成24年3月卒業)と三陸ボランティアダイバーズ代表の佐藤寛志さん(関連記事：5ページ、16ページ)  
(写真提供：三陸ボランティアダイバーズ)

大学がさらなる進化  
平成25年度に学部改組

特集 平成25年度 改組で進化する大学	2・3
新任職員挨拶	4
教員の学位取得	4
卒業式	5
入学式	5
持続可能な社会を探る 工学部	6
多彩な研究、活き活きと 情報デザイン学部	7
学ぶ意欲と確かな歩み 現代社会学部	8
準備万端、見通しクリア 短期大学部	9
高校から発信	10・11
本学院学生生徒の活躍	12
いすゞ自動車サービス技能コンテストに入賞	13
「ワクワク学び隊」実践交流会に出席	13
絵画の寄贈	13
進路状況	14・15
震災ボランティア体験報告会	16
今後の主な行事予定	16

広 報

第88号

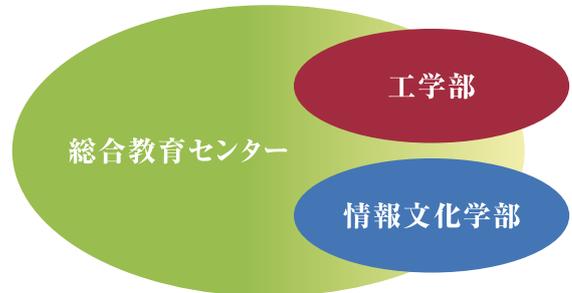
平成24年5月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

# 平成25年度 改組で進化する大学

## 時代のニーズに合わせ 次世代のリーダーを育成！

今、日本の大学は、グローバル化とユニバーサル化の時代を迎え、生き残りをかけた激しい競争をしています。また、時代の変化を受けて若者の気質も大きく変化しています。本大学もこれら時代の変化に取り残されないように前向きに改善努力を続けなければなりません。本大学は平成16年度と平成20年度に部分的に改組しましたが、平成25年度からは全面的に改組し、大きく進化します。



### 1. どのように進化するのでしょうか→2学部4学科+総合教育センター

現在、本大学には理系の工学部と情報デザイン学部の2学部、文系の現代社会学部の1学部、合計3学部があり、学科は理系の総合工学科と情報デザイン学科、文系の現代社会学部の3学科があります。この3学部3学科を改組再編して、理系は工学部、文系は情報文化学部とほぼ同じ規模の2学部にし、分野も工学部に新たに食品科学と農業科学と情報科学の分野を加えて、食農バイオ・リサイクル学科と生産工学科の2学科、情報文化学部には社会のニーズに沿ったソーシャルメディアと簿記・会計の分野を加えて、情報デザイン学科と現代社会学部の2学科を作り、2学部4学科体制にします。また、基礎教育や教養教育、キャリア教育などを実施する部局として、専任教員を配置した総合教育センターを設置します。すなわち、現在の3学部3学科を、2学部4学科と総合教育センターに改組します。

### 2. なぜ今改組をするのでしょうか→時代のニーズに合わせた内容の充実

本大学は平成21年度に上瀬野キャンパスにあった現代社会学部を中野キャンパスに移転しました。理系の学部と文系の学部をもつ広島では数少ない総合大学でありながら、その利点が十分に活かせていなかった反省からキャンパス統合を行ったものです。最近、ユニバーサル化による大学生の学力不足が全国的に言われており、学士力の強化が求められています。そこでキャンパス統合により、理系の学部と文系の学部が協力して文理融合型の教育を行い、教養教育の充実と基礎学力の向上を目指すことにしました。そのために総合教育センターを充実強化します。総合教育センターは現在もありますが、専任教員は配置していません。そこに多くの専任教員を配置し、学部と同等の部局にします。



もう一つの理由は、大学の使命として、地域の発展を支える人材やグローバル時代に活躍できる人材、複雑な社会問題を解決できる人材など、新しい時代に即した人材を教育することが求められているので、時代に即した教育ができる体制を確立する必要性がありました。

### 3. 新しい大学の特長は何でしょうか

#### ①基礎教育の充実→基礎学力+社会人基礎力+就業力

総合教育センターは、基礎学力と社会人基礎力を養うための全学教育組織です。人間力の向上を図る「高城科目」と基礎知識を培う「教養教育科目」を専任の教員が担当します。高城科目たかじょうというのは本大学の学生としての自覚を促しながら、学士力と就業力を身に付けるための基礎となるスキルを育成する17の科目の総称で、改組の一つの目玉としています。また、入学前に行う事前教育も充実し、数学、英語、物理、化学などの重要な基礎科目は習熟度別クラス編成をして基礎をみっちり鍛えます。また、ほとんど全ての科目を1クラス20名程度の少人数教育にして、学生が理解しやすいように気を配っていきます。

②専門教育の充実→学力+社会人基礎力+就業力

工学部には食農バイオ・リサイクル学科と生産工学科の2学科があります。食農バイオ・リサイクル学科では、発酵バイオコース、環境リサイクルコース、食農サイエンスコースが、生産工学科では機械工学コース、情報制御コース、電気工学コースが選べます。

情報文化学部には情報デザイン学科と現代社会学科があります。情報デザイン学科では、ソーシャルメディアコース、メディア・エンターテインメントコース、コミュニケーションデザインコースが、現代社会学科では経営ビジネスコース、国際コミュニケーションコース、福祉マネジメントコースが選べます。

学生の目線に合わせた教育で、社会に必要な人材として個性を伸ばしていきます。



工学部 食農バイオ・リサイクル学科

③サポート体制の充実→就職基礎力

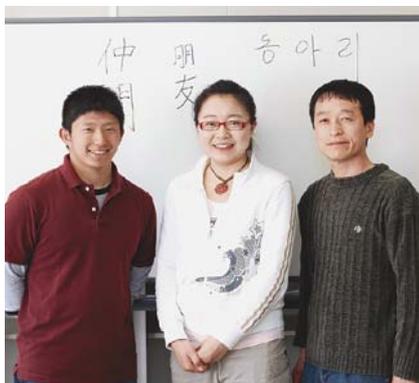
資格取得や進学、就職のサポート体制を充実します。資格取得では、中学校、高等学校の教員免許状が取得できます。その他、各学科には多くの資格が取れるように教員がサポートします。進学では本大学大学院や国公立の大学院への進学もサポートします。就職では教職員が協力して就職活動をサポートします。



情報文化学部 情報デザイン学科



工学部 生産工学科



情報文化学部 現代社会学科

4. どんな人材に育成するのでしょうか→次世代のリーダーを育成

工学部は、企業の多様な技術や新技術開発に対応するとともに、企業のグローバル化により求められるコミュニケーション能力や国際性を身に付ける教育をし、人間性豊かで幅広い基礎学力をもち、多様な技術にも柔軟に対応できる実践的中堅技術者を育成します。

情報文化学部は、インターネット、ゲーム、コンピュータを利用したコミュニケーションを技術的にデザインする情報デザイン学と、社会における問題把握・分析能力によって現代社会の諸問題の解決に貢献する現代社会学を融合した教育を展開し、社会・人間・コンピュータの相互のコミュニケーションをデザインできる人材を育成します。

総合教育センター

総合教育センターは、各学部に必要な基礎学力を補い、さらに社会人となるための基礎的な力を養う全学教育組織です。人間力の向上をはかる「高専科目」と基礎知識を培う「教養教育科目」を専任教員が学生の習熟度に応じて少人数教育を展開。高い「社会性とコミュニケーション能力」を備えた人材を育成します。教職課程をはじめ資格取得やキャリア教育、国際交流、ボランティアなどの支援も行います。

■ 親身な教育で、丁寧に理解・復習ができる高専科目・教養教育科目

- 事前教育(入学前) 推薦入試やAO入試で入学が決まったら、高校の英語、数学、社会の勉強を通信添削でしっかりサポート。新しい自分を始めるきっかけにしてください。
- 習熟度別クラス 英語、数学、理科は学生の進度に合わせて習熟度別クラス、ステップアップに合わせてクラスが変わっていく仕組みです。
- 少人数教育 教員が学生一人ひとりに丁寧にサポートできるように各クラスが少人数編成。分からないところほっきり理解できるまで指導します。

■ 総合教育センターの入学から卒業までの支援体制



サポートプログラム

資格取得サポート

- 実践的な資格から高度な資格まで、取得への確かなバックアップ体制。
- 学部共通選外講座
- 各学部による
- 専門資格取得サポート

進学サポート

- 大学院も設置し大学での学びを通じてふくらんだ、「学びたい」という意欲に応えます。さらに、国立大学への大学院進学も強力にサポートしています。
- 大学院設置 博士課程まで整備された工学研究科、現代社会学研究科を設置しています。

就職サポート

最新システムと丁寧な個人指導で完全バックアップ。



■ 大学

- (1年次) 就職ガイダンス、自己分析
- (2年次) 課外の資格取得講座
- (3年次) キャリアデザイン講座(単位取得可)、学内合同企業セミナー、適性・適職テスト、就職試験対策講座、公務員試験対策講座
- (4年次) 就職ガイダンス、個別面談

— はじめまして よろしく —

## 新任職員 挨拶

ひらせ ようこ  
**平瀬 洋子**  
情報デザイン学部講師

今年度より、本大学の講師としてお世話になることになりました。これまでの英語教育に携わってきました経験を活かして、学生の皆さんの英語力をさらにアップさせることができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



かきた せいじろう  
**柿田 清次郎**  
高校教諭

今年度より専任教諭として勤務させていただくことになりました。「教育は愛なり」の建学の精神の下、常に水平な視線で生徒と向き合い、共に成長できるように努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



もり けんたろう  
**森 健太郎**  
高校教諭

今年度より、専任教諭として勤めさせていただくことになりました。学生時代から本学院に育てていただきましたので、これからは教諭として恩返しできるよう、常に感謝の気持ちを忘れず全力で頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



まつもと ゆうきち  
**松本 雄吉**  
学生部就職課就職支援担当課長

今年度より、本大学の学生部就職課でお世話になります。34年間広島県庁に勤務し、本年3月に退職しました。もとより微力ではありますが、誠心誠意勤めて参りますので、何卒よろしくお願いいたします。



はまもと のりあき  
**濱本 典昭**  
高校事務長

このたび高等学校の事務長としてお世話になることになり、たいへん身の引き締まる思いです。毎日、目の前の仕事をこなしていくのに精一杯です。私の母校との思いもあり、微力ながら全力で頑張る所存です。何卒ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



## 教員の学位取得



学位名 **博士(学術)** 氏名 **遠藤 潤一**  
学位授与大学 **広島大学** 論文題目 **デジタルサイネージにおける画面デザインの研究**

近年、大型の液晶ディスプレイなどを用いて電子的に情報を提供するシステムが普及してきている。こうした情報提供システムは、デジタルサイネージと呼ばれており、広告としての利用に加え、公共施設や教育機関、病院などでは情報提供の新しい手段として広まりつつある。本研究では、このデジタルサイネージの画面デザインを対象に、どのような画面デザインが情報提供において適切であるかを、利用者の感性評価、認知的反応を基に評価したものである。

デザインの評価においては、感性工学分野から感性評価法、他覚的評価法を参照した。感性評価法は、単一の尺度で精密に順位付けできる一対比較法を採用した。他覚的評価法としては、人間の目の動きをリアルタイム測定できることから眼球運動測定法を採用した。本研究では、この一対比較法と眼球運動測定法を独自に組み合わせ、複数のパターンを比較しながら実験と評価を行った。

実験の結果から、静止画の画面デザインでは、グラフィック要素が存在することの効果を確認され、その中でもピクトグラムがもっとも効果的であることが分かった。また、画面切り替えを持つデザインを対象を拡張して評価を行った。実験の結果、画面切り替えがある画面デザインでは、横方向へ移動する画面切り替えが、見やすさの点でもっとも効果的であることが確認された。以上により、デジタルサイネージにおける基礎的なデザイン評価を明らかにすることができた。

## 卒業式(大学・短期大学)

3月19日、平成23年度大学・短期大学合同卒業証書・学位記授与式が執り行われました。

奥田勉学長は式辞で卒業生らの努力を称え、その門出を祝福するとともに、「社会の変化や技術の進歩はあっても世の中の物事や学問の基礎は変化しない。卒業後も豊かな人間性を身につける努力を続け、自分の能力を開花させてほしい」と述べました。祝辞に続いて各賞の授与がありました。CPL活動で学内環境の向上に取り組み、情報紙を発行するなど大学と地域との橋渡し役を務めた山根虹子さん(総合工学科：広島観音高校出身)と、昨年の大震災に伴う津波で被害を受けた東北で海中瓦礫撤去ボランティアとして活躍した小林佐和子さん(情報デザイン学科：安芸南高校出身)に学長賞が贈られました。保護者や家族、来賓、教職員に見送られ、卒業生は希望と充実感に輝く笑顔で学び舎を後にしました。



学長賞を受賞した小林佐和子さん(左)

## 卒業式(高等学校)

長引く冬の天候に春の訪れを待ち遠しく感じる3月1日、高等学校体育館にて平成23年度第63回卒業証書授与式が挙行されました。太田茂校長は卒業生に「自分に誇りを持ち、自分の可能性を広げよう。誇りは自分の生き方に自信を持つことであり、自信は自分の価値を認めること。そして、自信こそ生きる力である」と饒の言葉を贈りました。経済的停滞期に入った日本社会に追い打ちを掛けるように起きた東日本大震災。原発問題が国民生活や産業界に大きな影響を及ぼし、若者の未来に暗い影を落とす中、校長の言葉は卒業生一人一人の心に深く響いたはずで。式典は例年にもまして終始厳粛に行なわれました。卒業生は教室や校庭で恩師や友人、保護者と記念写真を撮り、いつまでも別れを惜しんでいました。卒業証書を手にした401名の若者は、それぞれの夢と希望を胸に巣立っていきました。



第63回卒業証書授与式

## 入学宣誓式(大学・短期大学)



平成24年度入学宣誓式

常よりも待たれた春、桜もようやく開き初めた4月5日に平成24年度大学・短期大学合同入学宣誓式が厳粛に執り行われました。奥田勉学長が入学許可宣言を行い、次いで新生代表が力強く宣誓しました。

奥田学長は式辞で「大学は自分の道を切り開く力をつけると同時に、進むべき道を見つける場であり時間です。学びにも遊びにも意欲を持ち続け、積極的に主体的に行動してください」と新生を激励しました。また昨年、東日本大震災に触れ「懸命の支援活動がなされているものの、本格的な復旧にはまだ程遠い。被災者の悲しみや苦しみを共有し、自分にできる復興への取り組みをしてほしい」と求めました。

学内では恒例の入学祝賀茶会が催され、新生や保護者などが次々と訪れました。茶道部員の心を込めた一服に緊張も解け、穏やかな喜びに包まれていました。

## 入学式(高等学校)



第66回入学式

朝からこうこうと降り注ぐ太陽の光が眩しく、まるで新たな門出を祝っているかのように感じる4月8日、平成24年度第66回入学式が挙行されました。日曜日ということで新生のご家族も多数参列され、二階席まで埋め尽くされる状況でした。保護者の教育への関心の高さや本高校への期待を背に感じながら、教職員一同改めて身の引き締まる思いがしました。新生429名を代表して普通科1年2組の草田大樹君(海田中学校出身)は「多くの先輩方が作り上げられた輝かしい歴史と伝統を継承し、これからの世界を担うにふさわしい人間となるよう努力します」という誓いの言葉を述べました。本高校の吹奏楽部による歓迎演奏が晴れやかに響き、式典に花を添えました。大勢の参列者が見守る中、誇らしげに会場を後にした新生は高校生活の第一歩を踏み出しました。

### 広島循環型社会推進機構からの委託研究

持続可能な開発を進めるには、単に資源を探してきてそれを消費するという一方通行の流れを改め、可能な物については「循環」させていくことが必須であり、そのためにリサイクルやリユースといった手法が盛んに研究されています。このような手法を最大限に活用し、廃棄物やエネルギー消費を最小限にする社会を「循環型社会」と呼び、この実現に必要な法律が循環型社会形成推進基本法に記されています。



有機液肥を粉末肥料に加工する工程を見学(緑カンサイ)

平成17年度より広島県では「NPO 法人広島循環型社会推進機構」が設立され、産廃税の一部を活用した廃棄物の有効利用促進に関する研究助成事業をスタートしました。このNPO 法人には本大学をはじめ、広島県内の大学ならびに産業界からも多数のメンバーが所属しており、産学官一体となった研究開発によってこれまで多数の課題について事業化が行われています。

本大学では、平成23年度に助成を受けた全20課題中の6課題に対して工学部、情報デザイン学部から計6名の教員が委託研究に携わっております。具体的には①産業用バッテリーのリユース、②携帯電話リサイクル、③自動車用

ハイブリッドモータのリサイクル、④小型焼却炉の廃熱回収・利用、⑤廃ガラス発泡体の用途開発、⑥クリーニング用フィルターのリユースなど多岐に渡っております。例えばハイブリッド車は、今後5年程度で廃棄される量が激増することが予想されています。このためのリサイクル技術を今から開発しておくことは大変重要で、現在レアメタルを多量に含む磁石の回収と銅線の分別回収に目処がつかしました。また産業用バッテリーのリユースに関しては、平成24年度に実際のフィールドテストに入るなど事業化を目前にした研究がまさに始まっています。

通常このような研究は難易度も高いので、研究者や企業および公設試験施設の担当者ベースで実施されることが大半です。しかし本大学では、こういった現実的な課題に対して学生を積極的に参加させ、実践力のある人材の育成を目指してきました。現場には様々な知識を持つプロがたくさんおられますので、活きた知識を直接指導していただける機会も多く、結果的に教育内容の向上に繋がると感じています。また、学生にとっても外部の方との共同研究では緊張感をもって学ぶことができるため、将来の就職活動に有益だと考えています。

教員数も決して多くない本大学で平成23年度に多数の課題を委託された背景には、本大学が掲げる「信和、協同、実践」という教育理念、即ち学生と教員が一体となった実践教育とその効果が高く評価されているものと考えております。今後卒業生がこの経験を活かして社会で活躍するのが本当に楽しみです。



自作プログラムを使い鉛蓄電池の充放電状況を計測



携帯電話の分解中



部分ごとに分類、体積や重量を計測し、リサイクル効率算出の準備



ハイブリッド車のモータを解体したところ



特殊な破碎法を用い、自動車ハーネスの銅線を回収

# 情報デザイン学部 多彩な研究、活き活きと

## 第5回卒業研究・卒業制作選抜展

情報デザイン学部として第1回、情報デザイン学科として通算5回目の卒業研究・卒業制作選抜展が、2月24日から26日までの3日間、広島市まちづくり市民交流プラザで開催されました。コマ撮りアニメーションや2Dアニメーションなど従来の作品に加え、今回は3Dアニメーションや3DCG+映像の作品、ゲームでは、パズルゲームや格闘ゲーム、アクションRPGゲームなど様々な作品が展示されました。また、郵便局のウィンドウデザイン、インテリア作品や冊子、東日本大震災写真公開Webサイトや英単語学習サイトなど、幅広いデザインジャンルの作品に加え、動的サインやキャンドルを使用したタンジブル楽器、音に反応する自動ゴミ箱など、人の動きに反応するインタラクティブな作品も登場し、多彩な研究が展示されました。さらに、今年度からコンピュータネットワークの研究も加わり、拡張現実の研究や気象データの可視化、教材用簡易赤道儀など、ますます幅広い作品と研究が選抜され、合わせて36点が展示されました。学生は自分の作品・研究の前に立ち、来場者に説明しながら積極的にコミュニケーションを図りました。来場者からのアンケートでは、学生やその作品・研究に多くのお褒めの言葉をいただき、学生の達成感がより高まりました。また、本大学袋町キャンパスでは、多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授の須永剛司先生による「社会をかたちづくる仕事：デザインの先端にみえていること」というテーマの基調講演とワークショップが行われ、学生は熱心に参加しました。活気ある選抜展は盛況のうちに終了し、来年の選抜展もますます期待されます。

来年は、2月22日から24日までアステールプラザで開催される予定です。



学科紹介の映像作品を鑑賞する来館者



来場者の受付



ダイジェストによる作品紹介(3Dアニメーション)



鑑賞する女子学生



来場者にアニメーション作品の説明



基調講演：須永剛司多摩美術大学教授



アクションゲームに挑戦する来場者



実演しながら作品の説明



入口から見た会場の様子

# 学ぶ意欲と確かな歩み

現代社会学部

## 卒業論文発表会

2月18日、袋町キャンパスにて卒業論文発表会を行いました。各ゼミから推薦された7名の報告者が発表しました。多くの関係者に対して詳細な調査を行ったうえで作成された卒業論文も複数あり、会場からも多くのコメント、質問が寄せられました。講評を行った山田陽子講師、伊藤泰郎准教授からその質の高さが評価されていました。



卒業論文発表会

発表者	題目	ゼミ
朴琳花 (中国・黒竜江省出身)	「日本の少子化問題に関する研究」	谷口ゼミ
清竹玲子 (広島国際学院高校出身)	「人と地域社会のつながりについて～子育てと高齢者」	迫ゼミ
松田英里佳 (大門高校出身)	「日本と世界の食育」	池本ゼミ
王文強 (中国・遼寧省出身)	「世界のサッカーの文化について」	栗原ゼミ
莫紅碧 (中国・重慶市出身)	「中国における農村人口移動—重慶市出稼ぎ者の実態分析—」	山本ゼミ
范晶婧 (中国・新疆ウイグル自治区出身)	「中国帰国者二世・三世における恋愛結婚問題」	古関ゼミ
中山隼輔 (広島国泰寺高校出身)	「広島における東アジアからの外国人観光客の現状と課題」	古関ゼミ

## 「社会福祉士・精神保健福祉士」相談援助実習報告会

1月18日、1学年のプレゼミの時間を活用し、社会福祉士・精神保健福祉士相談援助実習報告会を行いました。報告者は4年の金瑋珍さん(韓国出身)、塚原拓也さん(並木学院高校出身)、3年の黒瀬大地さん(広島県瀬戸内高校出身)、高雄康弘さん(広島国際学院高校出身)の4名です。

誰もがレジャーやアルバイトやクラブ活動を満喫する夏休み期間に、彼らは将来福祉の道へ進むのだという熱い思いをもって、暑い暑い日々を福祉施設で過ごしました。金さんは精神保健福祉士、他の3人は社会福祉士を目指し、180時間(23日or24日間)を、実習指導者の相談員や生活指導員などのアドバイスを受け、励まされながら、実際に障害者や高齢者との相談業務を経験しました。さらにはデイサービス業務や授産事業を、利用者とともにコミュニケーションをとりながら積極的に過ごすことができました。実習をクリアしたことで彼らは「福祉士という国家資格」を受験する道を自ら切り開いたのです。

後輩たちから、「楽しかったことは!」「苦しかったことは!」「コミュニケーションで心がけたことは!」などなど、相次いだ質問に対して誇らしげに笑顔で答える彼らは福祉への道を確かに歩み始めています。



貴重な経験を報告した学生  
(左から金さん、塚原さん、高雄さん、黒瀬さん)

## 新入生を迎えて



ボウリングを楽しむ新入生たち

現代社会学部では、平成24年度、53名の新入生を迎えました。

4月5日の入学式に先立って、3日、4日には大学生生活全般への導入を図る目的で初年次教育が実施され、6日、7日には受講登録等、単位修得に必要な情報を提供するため、新入生オリエンテーションが行われました。講義は9日から始まり、14日には、現代社会学部の教員全員が参加し、広島市中心部で、昼食会とボウリングによる新入生歓迎会が開催されました。

新入生の皆さんには、講義の受講に留まらず、本を読み、様々な場に身を置いて、人とまじわり、自分の頭で考えながら4年間を過ごして欲しいと思います。未知の体験、人との出会いを恐れず、異なった意見、見方を持つ人にも心を開いて、様々な可能性にチャレンジしてみましょう。教職員一同、皆さんの学生生活が充実したものになるようサポートしていきます。一緒に頑張りましょう!

## 2級整備士2冠達成

—自動車整備技能登録試験(2級ガソリン・2級ジーゼル)—

平成23年度の自動車整備士登録試験(平成24年3月25日実施)の合格発表が4月10日に行われました。結果は次表に示すとおり2級ガソリンと2級ジーゼルはいずれも100%で、平成20年度以来3年ぶりの2冠達成となりました。一方、1級小型(筆記試験)は1名が不合格となりました。

2級自動車整備士技術講習会は、昨年10月に開講式を行い約5ヶ月間かけて実技免除のための学科および実技講習を行いました。また、登録試験に向けた受験対策も、土日を返上して模擬試験や個人指導を徹底的に行いました。

1級小型自動車整備士については、1月下旬から本格的な対策として教科書を徹底的に熟読し、模擬試験の内容変更や予想問題の作成など実施してきました。口述試験も練習の末、卒業時には合格レベルまで力を上げてきました。8年連続100%を期待したのですが、国家試験1級の重圧と緊張のためか力を出し切れなかったようです。



模擬試験の様子

登録試験結果 (平成24年3月25日実施)

試験種目	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率
1級小型(筆記試験)	8名	8名	7名	88%
2級ガソリン	76名	72名	72名	100%
2級ジーゼル		30名	30名	100%

### 就職率100%を目指して採用試験スタート

## 「学内会社説明会」を実施 —試験準備を完璧に！—

1年生(平成25年3月卒業予定者)を対象にした学内会社説明会を、12月12日および19日に実施しました。

近年、広島県内の自動車整備関係の主だった企業は、1月から採用試験を開始し3月には終了しています。学生の就職への準備期間を十分確保するため、説明会の日程を繰り上げました。



会社説明会

説明会には県内のメーカー系ディーラーをはじめ、損保系調査会社、特殊車整備業、一般整備業、公務員系、自動車メーカーなど57社が参加。各ブースの担当者は「募集人員、教育・待遇面、将来性」などについて説明され、学生からの質問にも懇切丁寧に答えていただきました。

学生からは、企業から直に説明を聞くことで進路先の選択肢が増え、大いに役立ったとの感想がありました。

昨今の就職状況の厳しさを反映してか学生の動きも活発で、一人平均8~9社の説明を受け、盛況の内に終了しました。

学生にとっては将来を決める採用試験がスタートする緊張感から、安堵の気持ちにはなれない様子が伺えました。

## 教育方針説明会を実施

4月5日の入学宣誓式のあと、新入生、保護者に対する自動車短期大学部の教育方針説明会が行われました。はじめに松田庶務課長から保護者の皆様に短大後援会の内容説明と活動に対する協力のお願がありました。次に知名短期大学部長が本学の教育方針、楽しい学生生活を送るうえでのお願い、進級・卒業要件、整備士資格取得状況の説明や1年チューターの紹介などを行いました。就職担当の川口参与からは今までの指導経験も交えて就職活動の注意点が詳しく説明されました。その後、保健室の役割や健康診断時の注意事項など木村係長が説明しました。これからの学生生活を有意義に送るための大切な説明であり、皆さん熱心に聞いておられました。今年度の自動車短期大学部の入学生は留学生4名、女子5名を含む総勢82名です。元気に張り切ってスタートしましょう。



教育方針説明会

## 新しい企画に挑戦！2011年文化祭

11月20日、第50回広島国際学院高等学校文化祭が盛大に開催されました。各クラス・クラブが団結して取り組んだ展示物や模擬店バザーなどで、例年同様賑わいました。

しかし、今年は今までと違う点がいくつかありました。その一つが、全校生徒のメッセージ手形で作った壁画アートです。3月に起きた東日本大震災は、日本中を震撼させました。この震災をきっかけに、みんなの気持ちを一つにすることの大切さ、互いを思いやる気持ち、必ず復興するという祈りの気持ちが我が校にも沸き起り、春夏秋冬でそれを表現することができました。また、2学年は展示のテーマを「命・繋がり～そして絆へ～」として各クラスが様々な形で取り組みました。中でも総合学科4クラスの合同展示は迫力があり、大勢の人を魅了しました。

このほか、生徒有志による体育館ステージでのダンス発表やハンダスピーチ大会など、今までにない企画が今年度の文化祭では実施されました。文化祭において「やりきること」「新しいことにチャレンジしていく姿勢」は、来年度の生徒達にも引き継がれていくはずです。



メッセージ手形に生徒の気持ちを込めた壁画アート

## 平成24年度一般入試を実施 一県内外から1,430名が挑戦

本高校は2月16・17日の2日間において、「平成24年度一般入学試験」を実施しました。両日ともに交通機関の乱れがあったものの、予定時間を変更することなく、順調に執り行われました。

近年における普通科の実績ならびに総合学科の開設により、今年度も広島県内外から1,430名という多くの中学生の方が本高校への受験に臨みました。目まぐるしく変化を遂げる現代社会の中であって、本高校に入学される皆さんには、夢と希望をもって3年間の学校生活を送ってほしいと思います。



一般入学試験

## マラソン大会

2月11日、安芸郡坂町の森山ジョギングコースにて、恒例のマラソン大会が実施されました。この冬一番の寒波が日本列島に流れ込み、日本海側は大雪警報が発令された地域もありましたが、当日は予報に反して朝から太陽が光を放ち、厳しい寒さの中にも暖かさを感じる絶好のマラソン日和となりました。

太田茂校長から生徒たちに「マラソンを通して爽快感、達成感を味わってほしい」という言葉が投げ掛けられ、坂中学校に号砲が鳴り響く…。今年度は70分間の時間制限の中で、男子10km・女子5kmを走り切るという厳しいルールが設定されましたが、見事、全員が完走しました。男子は1・2年生ともに陸上競技部が1・2・3位を独占！上位を狙う他のクラブを寄せ付けぬ見事な走りでした。高校駅伝県2位の實力はさすがです。女子はバスケットボール部の健闘が光りました。日々の練習の成果ですね。

マラソンは辛くしんどい競技と言われます。それゆえ自らの弱さや限界に直面しますが、それに耐えうる力と精神力を培うからこそ、生きる力を高めるのです。マラソン大会で「走り続けよう」「前に進もう」とする気持ちがあるからこそ、完走した後に、「達成感」と「爽快感」が生まれるのです。この経験を、是非、普段の生活の中で活かしてほしいと思っています。3名の保護者の方も参加し、生徒と一緒に汗を流されました。春が少しずつ近づいている瀬戸内の自然を、肌で感じられたのではないのでしょうか。本当にありがとうございました。



一斉にスタートする生徒たち

## 「感謝・感動」～Rechallenge

サッカー部監督 瀬越 徹

皆様のご声援をうけ「第90回 全国高校サッカー選手権大会広島県大会」で第3位となりました。前回大会で1回戦敗退してから目標を広島の頂点(優勝)におき、不撓不屈の精神で日々トレーニングを重ねてきました。それから1年間で3位にまで上昇できた最大の要因は、学校の理解と協力で各県の強豪チームと交流し、技術力の強化を図れたことです。「可能性は無限大」をチームテーマに掲げ日々精進の結果、今まで一度も決勝トーナメントに進出できなかったチームがここまで成長し、周囲の方々に感動していただけたのは選手達のあきらめない前向きな姿勢があってこそだと思います。

準決勝戦の会場には多くの方々に足を運んでいただき、選手は今まで感じたことのない雰囲気の中で試合をすることができました。勝利で恩返しをしたかったのですが、まだまだ力不足で来年への課題が残りました。広島に新しい「風」を必ず吹かすと公言して戦ってきたこの大会、素晴らしい舞台に立てた経験を生かし再出発します。引き続きご声援よろしくお願いたします。

なお、この大会において「フェアプレー賞」を受賞し、大会優秀選手に4名が選ばれました。

◇大会結果 第3位

準決勝 広島国際学院 2-4 山陽 (2011年11月13日)

◇大会フェアプレー賞 受賞 8試合で警告(イエローカード)1枚

◇大会優秀選手

ポジション	氏名
MF	音間 喬介 (3年、大州中学校出身)
MF	三登 翔太 (3年、大州中学校出身)
GK	石丸 匠 (2年、翠町中学校出身)
FW	川相 宏樹 (2年、黒瀬中学校出身)



県大会で3位入賞、飛躍を遂げたサッカー部

## 熱烈峻厳 ～全ての人に応援される選手に～

陸上競技部監督 黒田 貴久

陸上競技においては、人間性の向上無くして競技力の向上はあり得ません。よって、本高校の陸上競技部では、「熱烈峻厳」をチームスローガンに「ただ速い選手より心の強い選手・全ての人に応援される選手」になることを念頭におき、人格形成・人間力の育成を目的としています。つまり、本高校で「陸上競技を学ぶ」のではなく「陸上競技を通して学ぶ」ことが大切であり、その結果競技者としても一人前の大人に成長することができると思っています。

高校生は3年間で卒業してしまい、その後の人生の面倒を見ることはできません。世界の舞台に踏み出すには自分自身で育っていく能力が不可欠なので、選手主体のクラブを作っていくのですが、「自ら育つ力・自己管理能力」を養う為に、日々厳しい言葉を投げかけ、選手に気付かせていくよう指導しています。

個人ではインターハイなどの全国大会出場を目標に、各地区大会や記録会に積極的に参加しています。本高校は古くから駅伝で活躍していた経緯があり、特に広島県高等学校駅伝競走大会に力を入れています。近年は多くの方々の支えもあり、活躍する大会も増えてきました。全国高校総合体育大会(インターハイ)1500mでは決勝へ進出しました。一方チームでも、第62回広島県高等学校駅伝競走大会で2位、第53回中国高等学校駅伝競走大会で4位と着実に成績を伸ばしてきました。

現状に甘んじることなく、危機感や切迫感を常に持ち、さらなる飛躍をしていきますので、ご声援よろしくお願いたします。

予定や結果など詳しくは本高校のHP(<http://www.hi.hkg.ac.jp/>)をご覧ください。



記録だけでなく人間性も伸ばす陸上競技部

## 【大学】平成23年度部活動成績

サークル名	受賞者	出場大会名	成績
アーチェリー	斎藤 大奨 (4年 魚津工業高校出身)	第41回中国四国学生アーチェリー個人選手権大会 (男子個人)	第3位
	大崎 祐 (2年 可部高校出身)		第6位
	石田明日香 (2年 広陵高校出身)	第41回中国四国学生アーチェリー個人選手権大会(女子個人)	第2位
	吉岡 良祐 (1年 美鈴が丘高校出身)	第41回中国四国学生アーチェリー新人選手権大会(男子初心者)	第5位
	梶谷 敦志(2年 広島工業(県立)高校出身)	第31回中国四国学生アーチェリーフィールド選手権大会 (男子個人)	第3位
	洲之内淳平 (3年 可部高校出身)		第5位
	大崎 祐		第6位
	石田明日香	第31回中国四国学生アーチェリーフィールド選手権大会(女子個人)	第2位
	大崎 祐	第16回中国四国学生室内アーチェリー個人選手権大会 (男子個人)	第1位
	斎藤 大奨		第2位
	山川 敦也(1年 愛知産業大学三河高校出身)		第4位
	村田 勇樹(2年 広島工業(県立)高校出身)		第8位
	石田明日香	第16回中国四国学生室内アーチェリー個人選手権大会(女子個人)	第1位
	石田明日香	第22回全日本学生アーチェリー西日本大会(女子個人)	第5位
	石田明日香	第24回全日本学生フィールドアーチェリー個人選手権大会(女子個人)	第5位
石田明日香	第66回国民体育大会 (成年女子個人)	第4位	



大学：アーチェリー部



高校：山岳競技

## 【高等学校】平成23年度部活動成績

部名	受賞者	出場大会名	成績
陸上	李 勳 (3年 中広中学校出身)	第64回中国高等学校陸上競技対抗選手権大会 1500m	第1位
	団 体	第53回中国高等学校男子駅伝競走大会 学校対抗	第4位
	木村 大樹 (3年 西条中学校出身)	第53回中国高等学校男子駅伝競走大会	第2区区間賞
レスリング	寺尾 浩幸 (3年 西条中学校出身)	第50回中国高等学校レスリング選手権大会 50kg級	第1位
	永井 達也 (1年 八本松中学校出身)	第27回中国高等学校選抜レスリング大会 84kg級	第3位
ゴルフ	長谷川祥平(3年 廿日市市立大野東中学校出身)	中国高等学校ゴルフ選手権大会 春季大会 男子の部	第1位
	村山 駿(3年 呉市立昭和中学校出身)		第2位
	久志岡 亮 (3年 仁保中学校出身)		第2位
	長谷川祥平	第66回国民体育大会中国ブロック大会 男子個人	第2位
	村山 駿		第3位
	団 体		第2位
団 体	第66回国民体育大会 少年男子団体	第7位	
山岳競技	岩本日菜子(1年 広島市立二葉中学校出身)	第66回国民体育大会中国ブロック大会 少年女子	第3位
ボウリング	森本 海成 (1年 大州中学校出身)	第66回国民体育大会中国ブロック大会 少年男子個人	第3位
	団 体	第66回国民体育大会 少年男子団体	第4位

# いすゞ自動車サービス技能コンテストに入賞

—短大OB・田平さん、3位飾る—

本短大自動車工業科の卒業生でいすゞ自動車(株)広島サービスセンターに勤務する田平暁生さん(平成16年3月卒業)が、同社サービス技能コンテストに出場。小型シニアクラスでテクニシャン3位、サービススタッフ大賞の栄誉に輝きました。

同コンテストでは商品知識、安全作業、故障診断力、基本作業と学科・実技の様々な科目が審査されます。中でも難しかったのは基本作業だったとか。大きな努力が実った田平さんは「晩酌を我慢して勉強した結果が出て嬉しい」と喜びを表しました。

勤務先ではトラックの販売、車検、修理に従事。特に修理業務では、車の急な故障で出張修理に行くこともあります。応急処置を施して走らせることができたときはドライバーから感謝され、やりがいを感じるといいます。

短大在学中は就職を目指して勉強三昧の日々を過ごした田平さん。社会人となった現在、必修単位よりむしろ選択単位が役に立っていると感じるそうです。「2級自動車整備士以外の勉強も役立つことがあります。後輩たちにはいろいろなことに興味を持ってほしい」と語りました。



大きな結果を残した田平さん



ワクワク学び隊 実践交流会

## 「ワクワク学び隊」実践交流会に出席

広島県教育委員会(主管：県立生涯学習センター)は、放課後子ども教室の活動内容の充実、活性化を図るとともに、大学生の社会貢献活動への参加の支援を目的として、平成23年度から大学生のボランティアチーム「ワクワク学び隊」を組織し、放課後子ども教室へ派遣を行っています。「ワクワク学び隊」には、県内16の国公立大学から28もの団体が登録され、本大学からは登録団体としてソフトボール愛好会の25名が名乗りをあげています。

2月28日、広島県庁6階講堂において、「ワクワク学び隊」実践交流会ならびに平成23年度第2回放課後子ども教室コーディネーター等研修会が開催されました。本大学からは中西慶太郎さん(現代社会学科4年・立正大学浜南高校出身)、加藤有希さん(同3年・広島国際学院高校出身)、上原光輝さん(総合工学科2年・広島国際学院高校出身)、政倉孝晴さん(同1年・三次青陵高校出身)の4名が出席。ポスターセッションでの展示発表、パネルディスカッションでの意見発表など、大学のボランティアや県および市町教育委員会の先生方と活発に交流を持ちました。

学生間の交流では大きな刺激を受けるとともに、町の先生方からは学習プログラムに関するアイデアをたくさん頂戴し、後に活かすことのできる大変貴重な時間となりました。

## 絵画の寄贈 —秋の溪谷美に心安ぐ—

理事長 鶴 素直

私の高校時代の同級生である山新勝様から、見事な水彩画をご寄贈いただきました。理事長室に飾り楽しませていただきます。

最初に見たとき、秋の紅葉が最も美しい時期を捉えた風景写真かと思いました。広島県北地方をスケッチ旅行された折の作品で、聖湖の樽床ダム真下の、三段峡最北端部の秋の景観を描いています。

山新様は県美展にたびたび入賞されているほか、個展も計画されている由伺っております。今後のご成功をお祈りいたします。

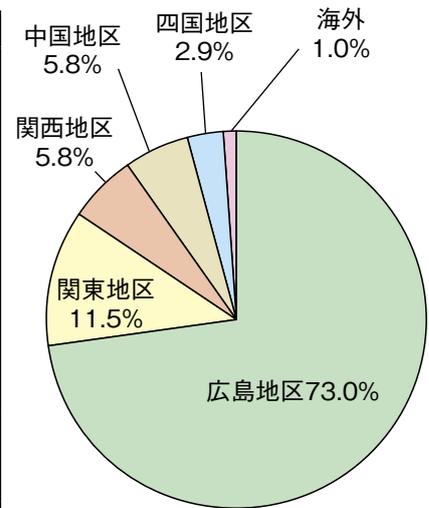


「紅葉に染まる溪谷」

- 厳しい国際競争のもとで企業が求める「社会人基礎力」を備えた人材の育成に努めています。
- 従来から積極的で行動力のある学生を育てており、実社会での活躍が評価され近年学生1人当たり約40倍の求人倍率を得て、高い就職率を達成しています。
- 就職模擬試験をはじめ面接・小論文の指導など、学生の就職活動を就職課と教員がきめ細かくサポートします。

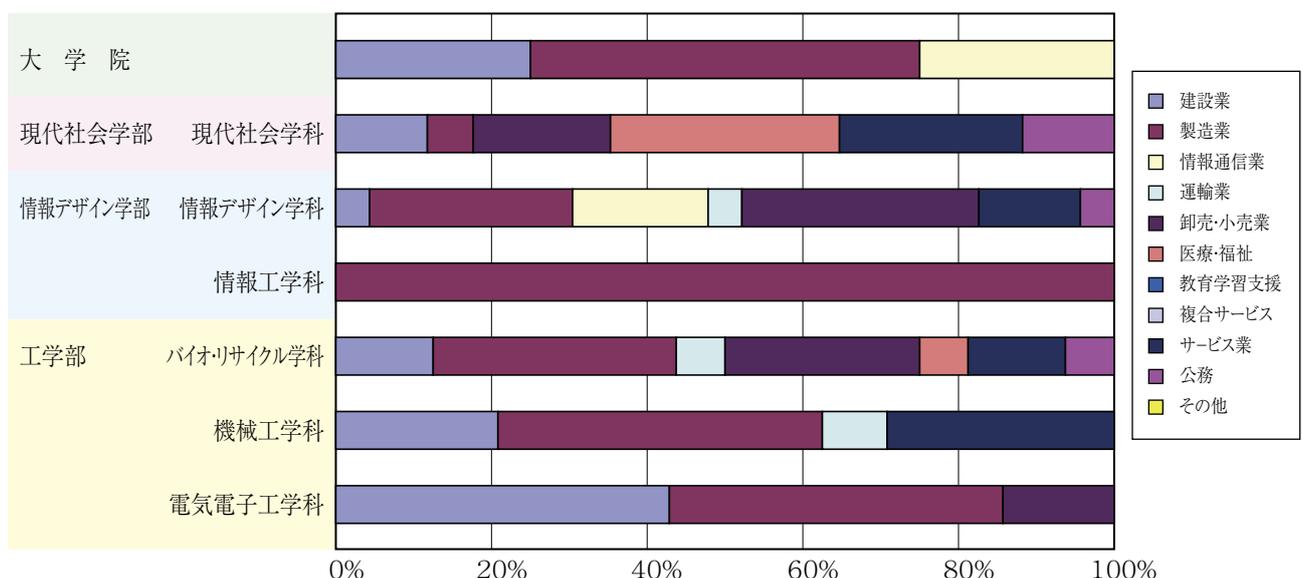
## 主な就職先

	工学部	情報デザイン学部	現代社会学部	大学院
広島地区	佐川急便(株)中国支社 山陽空調工業(株) JFEスチール(株)西日本製鉄所 大新電工(株) 大和重工(株) 中国電機製造(株) 中国木材(株) (株)中電工 デルタ工業(株) 日鋼設計(株) (株)ムロオ (株)ロジコム	アクト中食(株) (株)イガワテック (株)音戸工作所 かめや釣具(株) (株)錦水館 シンセイアート(株) (有)創元社 伯和グループ 広島ガス北部販売(株) (株)福山臨床検査センター (株)藤三 プライムデイリーフーズ(株) (株)ユアーズ	(株)M&Cコラボレイション (株)新スコレ・コーポレーション (株)白菱 広島県信用組合 三井生命保険(株)広島 (株)ムクダ (社)もみじ福祉会 夢トピア (株)やしま (社)福)優輝福祉会 陸上自衛隊	(株)フレンド商会 (株)石崎本店 (株)UNEMOTO (株)A I S
関東・北陸	山九(株) (株)サンテック(東京) 北星ゴム工業(株)	(株)エイチ・エル・シー (株)協和エクシオ 有限)エイ・ストラック・ネーディングス		
関西・東海	(株)片倉の鋼管 大和冷機工業(株) (株)湯山製作所		(株)ミキハウス (株)ヤング商事	中谷機工(株)
中国・四国		(株)中四国丸和ロジスティクス (株)フレスカ (有)クレオ	(株)三永 柳井地区広域消防組合	



地区別就職先

## 業種別就職状況



平成23年度

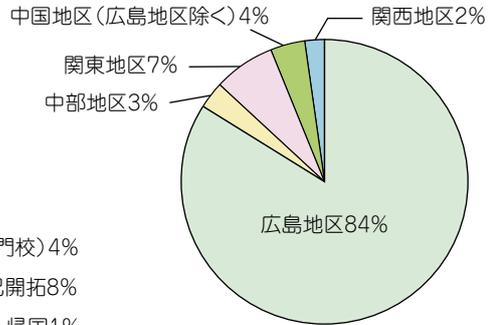
# 広島国際学院大学自動車短期大学部進路状況

平成24年3月30日現在

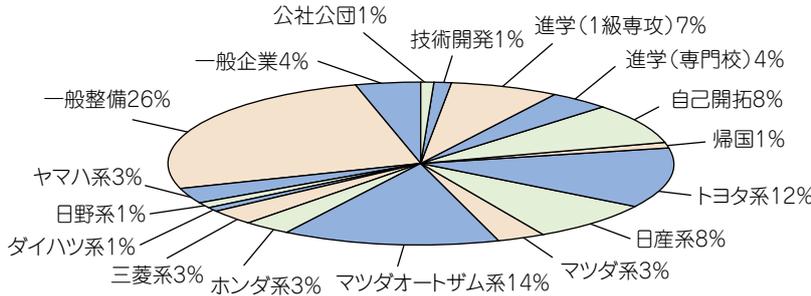
## 進路状況

卒業生数	76名
就職決定者/希望者	61名/61名
進学決定者/希望者	8名/8名
自己開拓等	6名
帰国者	1名

## 地域別進路状況



## 卒業生の進路内訳



平成23年度

# 広島国際学院高等学校進路状況

平成24年3月30日現在

学 科	性 別	在 籍	進 学				就 職					
			大 学	短 大	専 門	未 定	県 内	県 外	公 務 員	自 営	自 己	未 定
総合システム科	男	78	48	2	17	2	6	0	0	0	0	3
	女	40	10	3	17	1	2	0	0	0	2	5
普 通 科	男	142	114	2	7	12	3	0	1	2	0	1
	女	141	79	13	41	3	0	1	0	1	2	1
合 計		401	251	20	82	18	11	1	1	3	4	10
		%	92.5				7.5					

## 大学・短期大学 合格先

	大 学	短 期 大 学
中四国	広島大、島根大、山口大、愛媛大、香川大、広島市立大、尾道市立大、県立広島大、岡山県立大、山口県立大、下関市立大、島根県立大、鳥取環境大、高知県立大、比治山大、広島国際学院大、広島国際大、広島修道大、広島都市学園大、広島文化学園大、広島文教女子大、広島女学院大、安田女子大、広島経済大、広島工業大、福山平成大、岡山理科大、山口東京理科大、吉備国際大、川崎医療福祉大、環太平洋大、倉敷芸術科学大、徳島文理大、松山大	比治山大短大部、広島国際学院大自動車短大部、広島文化学園短大、山陽女子短大、安田女子短大
その他	北見工業大、名古屋立大、兵庫県立大、長崎県立大、宮崎公立大、北九州市立大、水産大学校、東北福祉大、駿河台大、芝浦工業大、諏訪東京理科大、文京学院大、明治大、明治学院大、武蔵野美術大、多摩美術大、創価大、青山学院大、東京造形大、東京女子大、日本大、法政大、中央学院大、同志社女子大、帝京大、中京大、関東学院大、東京国際大、神奈川大、金沢工業大、京都女子大、京都精華大、京都外国語大、京都産業大、立命館大、佛教大、姫路獨協大、大阪保健医療大、大阪学院大、関西大、関西外国語大、摂南大、甲南大、関西学院大、甲南女子大、奈良大、近畿大、九州産業大、九州国際大、九州共立大、西南学院大	

## 専門学校 合格先

広島市立看護専門、広島県立三次看護専門、呉医療センター附属看護、呉共済病院看護専門、マインドビューティカレッジ、広島製菓専門、IGL健康福祉専門、穴吹デザイン専門、広島工学院大、小井出ファッションビューティ専門、広島県立呉高等技術専門校、広島リゾート&スポーツ専門、広島外語専門、広島会計学院電子専門、トリニティカレッジ、広島YMCA専門、広島福祉専門、広島医療秘書こども専門、広島県理容美容専門、代々木アニメーション学院、広島コンピュータ専門、広島市医師会看護専門、広島情報ビジネス専門、広島デンタルアカデミー専門、広島ビジネス専門、広島情報専門、広島ビューティーアート専門、広島美容専門、HAL東京、広島酔心調理製菓専門、岡山労災看護専門、竹岸食肉専門、東京服飾専門、京都ピアノ技術専門、京都建築専門、大阪モード学園、大阪ダンス&アクターズ専門、神戸ベルエール美容専門、岩国YMCA国際医療福祉専門、東京フィルムセンター映画・俳優専門

## 主な就職先

佐川急便(株)、(株)ソルコム、マツダ(株)、日本通運(株)、日米礦油(株)、(株)ワイテック、(株)キレックス、きらら歯科、(株)中電工、(株)ベッセルホテル開発、エネクス石油販売西日本(株)、よしたに家華納園

# 震災ボランティア体験報告会

—東北の海再生へ、清掃と情報発信を—



東日本大震災学生ボランティア報告会

3月2日、本大学袋町キャンパスにおいて「東日本大震災学生ボランティア報告会」を開催しました。平成23年8月から11月まで岩手県を中心とする三陸海岸で海底清掃ボランティアに従事した小林佐和子さん(情報デザイン学部4年、安芸南高校出身)と、NPO法人「三陸ボランティアダイバーズ」代表の佐藤寛志さんが活動の経緯を詳細に述べました。

最初に小林さんは、地震による津波で壊滅的な被害を受けた東北各地の様子をいくつもスライドで示しました。テレビで被災地の惨状を目にし、被災された方々は家も家族も失っているのに自分は同情するだけしかできないのかと2ヶ月間考えた末、行動を起こしたといいます。インターネットで偶然開いたサイトで海底瓦礫の撤去ボランティアの記事を発見。陸上に比べ作業が進まず、また専門的技術を要する

海中清掃は余計に大変だと思い、また自身もダイバーのライセンスを持っていたため「三陸ボランティアダイバーズ」に参加を決めたと語りました。

次に、現地で日々行っていた活動内容を紹介しました。海中瓦礫撤去の基本は、重りをつけたロープを陸上から海に投げ、ダイバーが瓦礫をロープで結わえて合図を送り、陸上班が引き上げることの繰り返しです。陸上で瓦礫を引き上げる作業は地元の漁師が手伝うことも多く、服に名前を書くなどして顔と名前を覚えてもらい、話しやすくすることで作業効率が上がったといいます。川の清掃も重要な作業で、海から数百mも流されてきた瓦礫を、小さな物まで人海戦術で取り除いたことも紹介しました。今なおたくさんの瓦礫が沈んでおり、台風や潮流などで打ち上げられることもしばしばです。復興への道程は長く、継続的な支援が必要だと指摘しました。小林さんは得意のパソコンを駆使し、三陸ボランティアダイバーズ公式サイトにきた問い合わせメールへの対応や活動報告ブログの更新にも携わっていました。今後の支援として、情報発信が課題になると結びました。

続いて登壇した佐藤さんは、津波発生からの1年間の活動を時系列で報告しました。当時タイで働いていた佐藤さんは、同じく津波被害を経験した現地スタッフにも後押しされ帰郷。約1ヶ月間は支援物資の配送作業をしていました。配送作業中に漁師と話したことがきっかけとなり、ダイバーの技能を生かした清掃活動を4月から開始しました。陸上と違い河川や海中の瓦礫撤去は遅れがちですが、地道な作業の結果きれいになった場所は元の姿を取り戻しつつあり、特産のワカメや鮭などの生き物も戻り始めました。ダイビングポイントやエコツーリズムスポット、港や漁場にも再生の兆しが現れているといいます。復興へ歩み出した三陸の現状を、動画をふんだんに取り入れ生き生きと紹介しました。活動を続けていくためにも写真や映像を含めた情報発信は重要で、小林さんのような専門的なスキルを持つ人材が増えて欲しいと語りました。

佐藤さんは最後に、4ヶ月もの間大きな力になってくれ、地元にとってかけがえのない存在だったと小林さんを称え、越喜来漁協(岩手県大船渡市)から託された感謝状を手渡しました。



泊漁港(岩手県)で地元漁師と作業準備するボランティア(写真提供:三陸ボランティアダイバーズ)

★ 今後の主な行事予定 (赤字は公開行事です)	大学短期大学	学長杯スポーツ大会(大 5/26) 球技大会(大 6/16) 学外展(大 7/16) 前期末試験(大 7/31~8/6 短 8/1~8/3) オープンキャンパス(大 6/24 7/29 8/25 短 6/24 7/22 8/26 9/23) 夏季休業(大 8/7~9/19 短 8/4~9/12) 高城祭(10/27~28)
	高等学校	新入生集団合宿(5/18~22) 体育祭(6/9) 期末考査(7/6~11) クラスマッチ(7/18~19) 終業式(7/20) 夏季アメリカ研修(8/1~16) 保護者対象入試説明会(8/25) 始業式(9/1)

87号訂正: 11ページ 「私の学生生活」 出身校名「有明高校」→「有朋高校」

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536